

TOKYO-Bay Shorebirds Survey

東京湾シギチドリ一斉調査

27名の方に調査に協力していただき、今回も無事調査を終えることができました。ありがとうございました。

次回は、2014年2月初旬を予定しています！

●調査結果のまとめ●

●調査日・調査場所

2013年8月18日（日）

コアタイム 8:00～9:00

東京湾内湾 17地点

調査参加者 27名

●確認されたシギチドリ類

- ・26種、891羽となりました。
- ・複数回カウントしたサイトは種のMAX値を採用。
- ・コアタイム外ですが、盤洲、六郷干潟、東京港野鳥公園、多摩川河口（東京側）は算入しました。

●確認されたシギ・チドリ LIST

科名	種名	学名	科名	種名	学名
チドリ科	ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>	シギ科	アカアシシギ	<i>Tringa totanus</i>
	ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>		アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>
	ハジロコチドリ	<i>Charadrius hiaticula</i>		タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>
	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>		キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>
	シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>		ソリハシシギ	<i>Xenus cinereus</i>
	メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>		イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>
	オオメダイチドリ	<i>Charadrius leschenaultii</i>		キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>
ミヤコドリ科	ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus</i>		ミュビシギ	<i>Calidris alba</i>
セイタカシギ科	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>		トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>
シギ科	オグロシギ	<i>Limosa limosa</i>		ヒバリシギ	<i>Calidris subminuta</i>
	オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>		ウズラシギ	<i>Calidris acuminata</i>
	チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>		ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>
	ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>		キリアイ	<i>Limicola falcinellus</i>

●シギ・チドリの種類構成

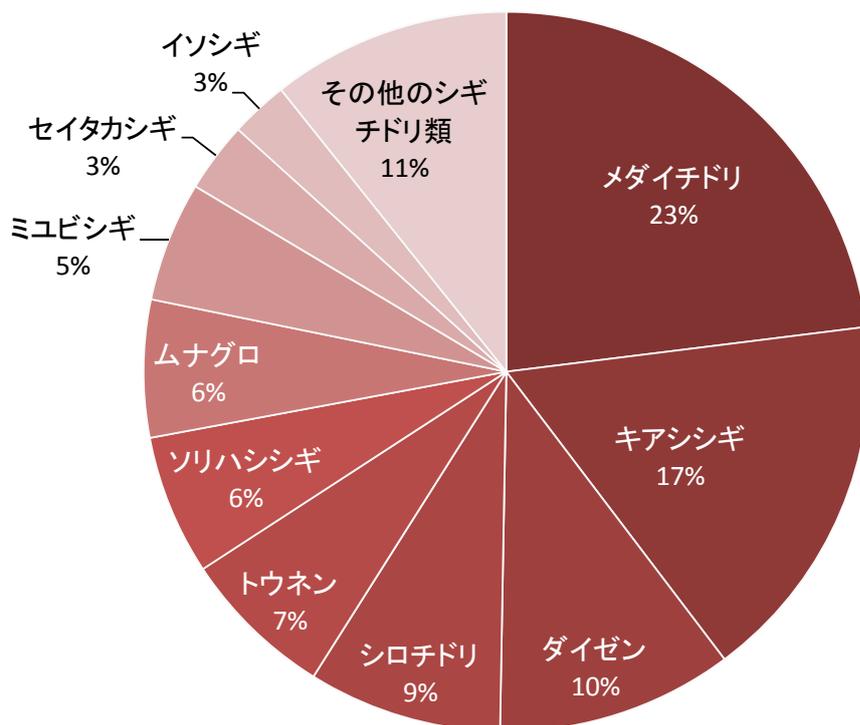


図1
東京湾のシギチドリ類の種類構成
(コアタイム以外も含む:2013/8/18)

総数:891羽
メダイチドリが全体23%
で、205羽

●確認された種類の傾向

- メダイチドリが最も多かった(205個体)。キアシシギ、ダイゼン、シロチドリが次いで多い(去年はキアシシギ、ミュビシギ、メダイチドリの順)。
- 確認地点では、キアシシギの14カ所が最多。ソリハシシギ13カ所、イソシギ10カ所。護岸や磯などを利用できる種が東京湾では広く見られる。自然護岸が少ない状況を反映していると思われる。

●個体数の多かったサイト

- 谷津干潟 211個体、江戸川放水路 80個体、三番瀬 70個体、盤洲(コアタイム外) 179個体。谷津干潟が最も多い結果となった。おそらくこれは潮汐の関係で、当日は中潮であり潮が引ききらなかったため、潮位、谷津干潟→三番瀬→塩浜干潟や葛西海浜公園と移動すると考えられ、湾奥部の干潟を利用する種は一体としてみたほうが良いと思われる。

●種類が多かった場所

- 中央防波堤:14種、盤洲(コアタイム外):13種、谷津干潟:12種、葛西臨海・海浜公園:9種。後背水田や淡水池など、多様な環境があると種類も多い傾向がある。

●シギチドリの確認分布

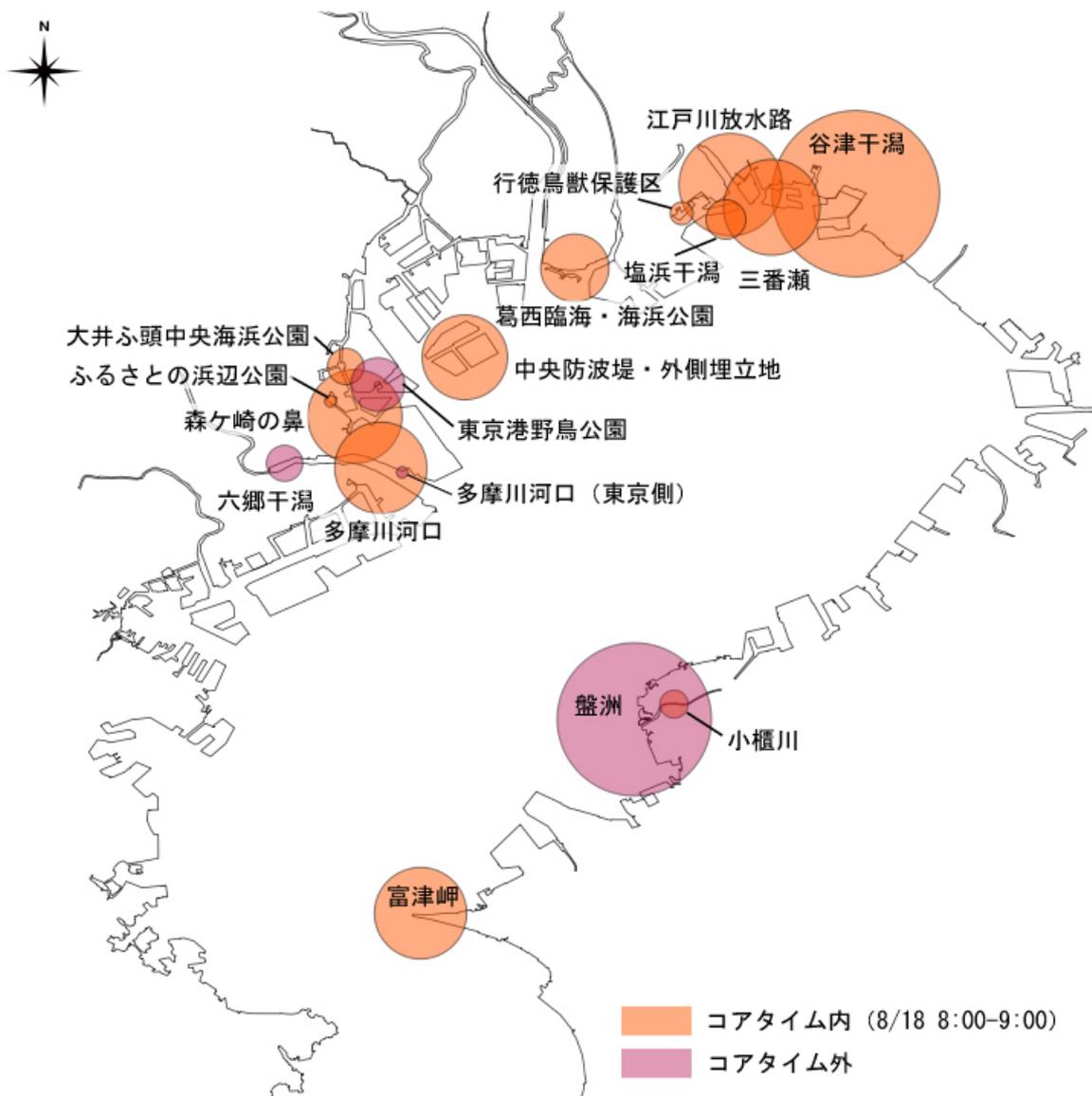


図2
調査地のシギチドリ類の個体数分布(総数)
円の大きさは、確認された個体数の大きさを示す。谷津干潟での観察数が最も多く、211個体。

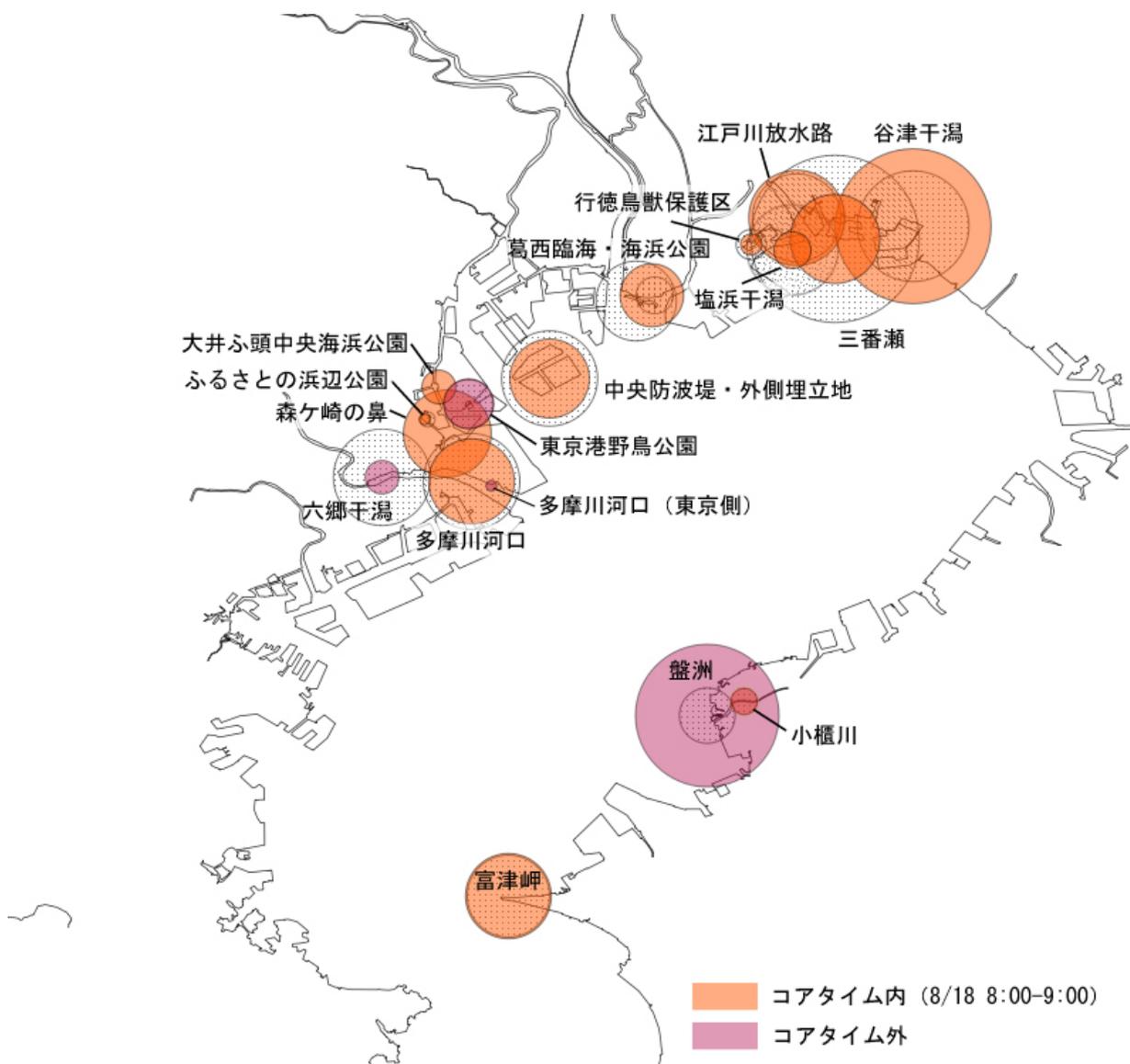


図3

2012年秋と2013年秋のシギチドリ類の個体数分布(総数): 網掛け円が2012年秋の個体数

2013年秋の個体数の規模は、891羽。2012年秋は三番瀬、塩浜干潟、六郷干潟で大きく、2013年秋は、谷津干潟、森ヶ崎の鼻で大きかった。ちなみに、昨年は、調査地点16地点、確認されたシギチドリ類 21種、929羽。

2012年のコアタイムは、大潮 11:58 22.3cm (船橋)、2013年のコアタイムは、中潮 8:43 31.2cm(船橋)。

●上位6種の分布

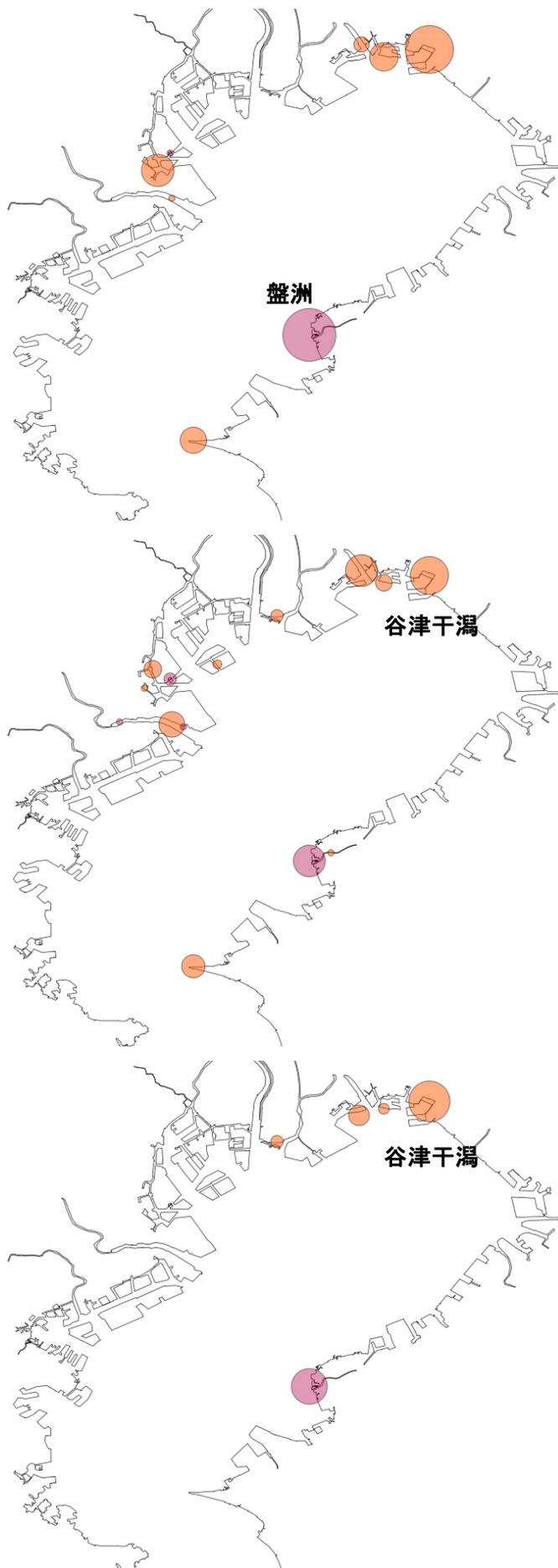


図3
調査地のメダイチドリの
個体数分布

オレンジ色がコアタイム
ムサイト
紫色はコアタイム外
円は個体数の大きさ

盤洲が最大で72羽。

メダイチドリ

図3
調査地のキアシシギの
個体数分布

オレンジ色がコアタイム
ムサイト
紫色はコアタイム外
円は個体数の大きさ

谷津干潟が最大で
37羽。

キアシシギ

図4
調査地のダイゼンの個
体数分布

オレンジ色がコアタイム
ムサイト
紫色はコアタイム外
円は個体数の大きさ

谷津干潟が最大で
43羽。

ダイゼン

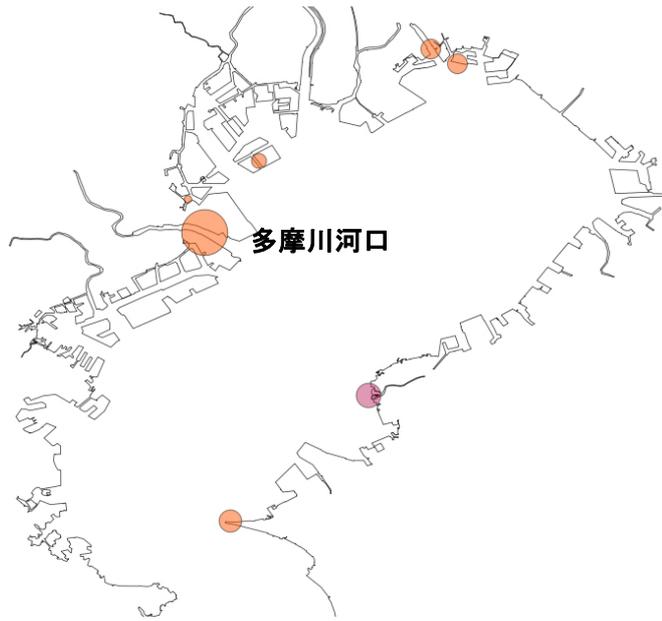


図5
調査地のシロチドリの
個体数分布

オレンジ色がコアタイム
ムサイト
紫色はコアタイム外
円は個体数の大きさ

多摩川河口が最大で
38羽。

シロチドリ

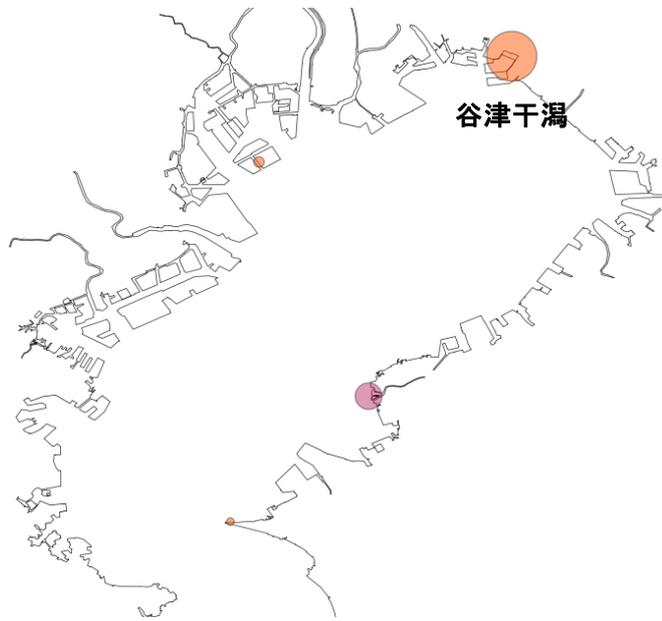


図6
調査地のトウネンの個
体数分布

オレンジ色がコアタイム
ムサイト
紫色はコアタイム外
円は個体数の大きさ

谷津干潟が最大で
45羽。

トウネン

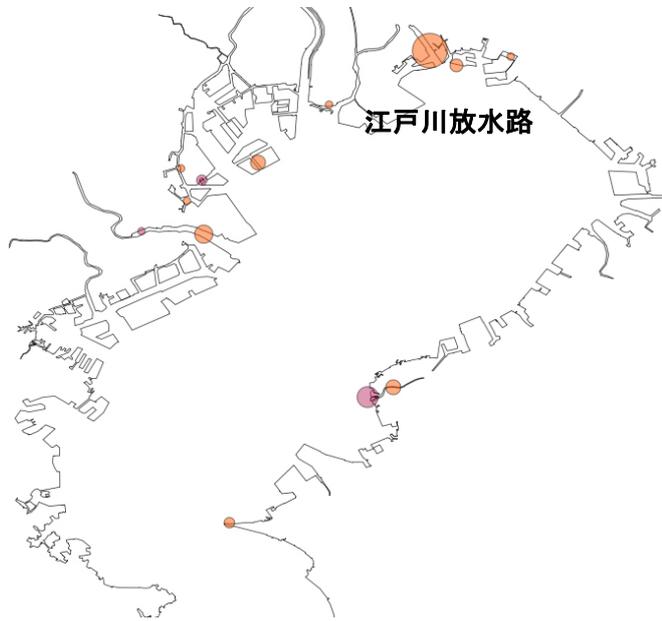


図7
調査地のソリハシシギ
の個体数分布

オレンジ色がコアタイム
ムサイト
紫色はコアタイム外
円は個体数の大きさ

江戸川放水路が最大
で22羽。

ソリハシシギ

東京湾秋期のシギ・チドリ類個体数

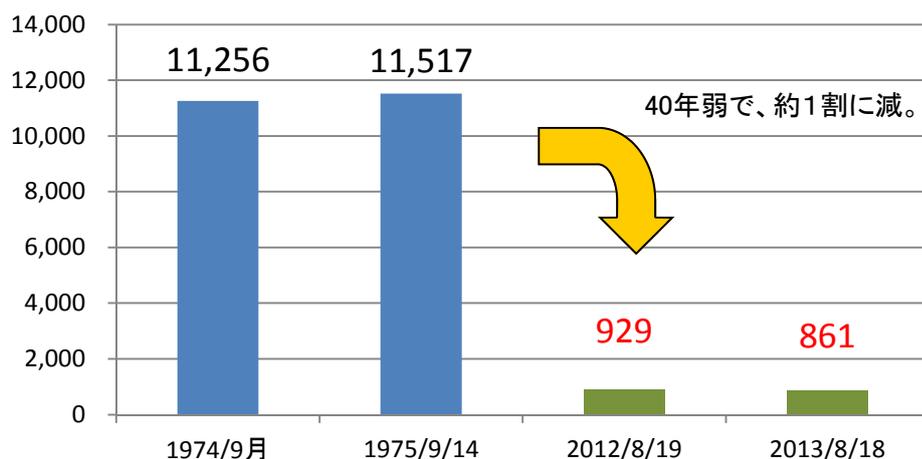


図8
東京湾の秋期における過去の一斉調査と、昨年と今年の一斉調査の比較。

1974年と1975年の記録は、「干潟に生息する鳥類の全国一斉調査3(1976)」から引用。

モニタリングサイト1000 シギチドリ類調査 (一斉調査9月初旬:東京湾内)

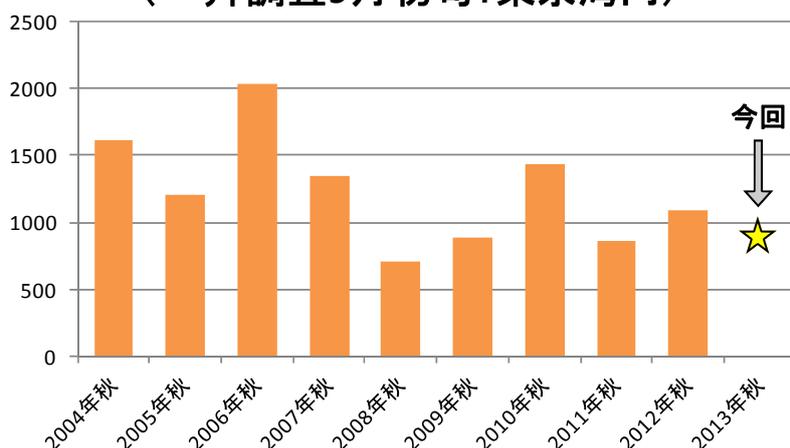


図9
モニタリングサイト1000(環境省事業)における東京湾内のサイトの秋期一斉調査の推移。

調査は9月初旬に固定されている。モニタリングサイト1000速報から作成。

近年は、約1000個体ほど。今回の結果とあまり変わらない。少ないまま安定している。

●感想

今春と同じように「干潟に生息する鳥類の全国一斉調査3(1976.4.20)日本鳥類保護連盟・日本野鳥の会」から1974年秋と1975年秋の調査で確認されたシギ・チドリ類の個体数をグラフに示しました(図8)。今回の個体数は、約10分の1でした。モニタリングサイト1000の一斉調査は9月に行われており、だいたい1000個体なので(図9)、減少傾向は止まっているものの、少ないまま安定していると言え、これは現在の東京湾の容量を表しているとも言えそうで、中継地としての機能が大きく落ちていていると考えられます。ただ、秋期に東京湾を利用しているシギ・チドリ類は入れ替わり立ち替わりですので、その総数などの推測は、渡りの期間や滞在時間も考慮して推測する必要があると考えられます。

反省点

今回、朝だったので、逆光で非常に鳥が確認しづらいとご意見いただきました。考慮したいと思います。また、8時ぐらいで人の影響はすでにあるようで、私が担当した多摩川河口も、すでに干潟に人が入っていました。

また、調査域が広く、コアタイムの時間では足りないというご意見もありました。助っ人がもう少し必要な気がしますので、広報をしっかりとりたいと思います。